

平成 29 年度 中部地区社会教育委員連絡協議会  
志太地区社会教育委員研修会について

○研修の流れの確認

- ケース 1 分科会→全体会→講演会→視察
- ケース 2 講演会→視察
- ケース 3 分科会→全体会→視察→講演会

○検討事項 1

会場について

考えられる施設

金谷公民館、六合公民館、初倉公民館などの社会教育施設

おおり、図書館、こども館（博物館は収容人数で難しい）

○検討事項 2

研修会の内容について

①講演会の開催の有無 → 開催する場合の「演題」、「講師」

②分科会方式の話し合いの有無 → 有の場合の「内容」

③施設の視察研修の有無 → 有 視察施設名「」

案 1 島田市博物館企画展を含む展示

案 2 河村家

案 3 こども館、島田図書館

案 4 富士山静岡空港

○参考

日時 平成 29 年 7 月 日（ ）午前 10 時～午後 4 時（受付 午前 9 時 30 分～）

参加人数 40～50人

■平成28年度市町社会教育委員長等研修会について（報告）

出張年月日	平成29年1月12日（木）
出張先	沼津市 プラザヴェルデ
報告事項	<p><b>○会長あいさつ 南山会長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域に戻って実践していただくために、十分な研修内容を準備させていただいたと思う。よろしくお願いします。</li> </ul> <p><b>○「社会教育施策の今とこれから」 静岡県山本社会教育課長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・資料（P3～5）を基に、事業の説明があった。</li> <li>・家庭教育支援サイト「つながるネット」を開設したので、ぜひ活用を。</li> <li>・地域の指導者の養成、特に養成方法が今後の大きな課題として認識している。</li> </ul> <p><b>○事例発表「掛川市社会教育委員会の活動について～家庭教育力の向上と支援～」鈴木掛川市社会教育委員長</b></p> <p>「家庭教育力の向上とその支援、実践的手法」について、過去4年間にわたって活動してきた内容について紹介があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会教育委員の活動の周知も考えながら、市民総ぐるみで家庭教育を支援していこうと、実践発表やクリアファイルを活用するなど、情報提供に努めたことが把握できた。</li> </ul> <p><b>○事例発表「森町の社会教育 町内会が進める社会教育」村松森町社会教育委員長</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館が設置されていない森町では、社会教育推進員制度を活用した社会教育学級を実践しており、その実施内容について説明があった。</li> <li>・町内会組織を活用した事業であり、ある意味、町内会の行事が社会教育事業、協働推進事業そのものであると感じた。</li> </ul> <p><b>○講演「第34期静岡県社会教育委員会報告について～学校を支える地域と社会教育」阿部耕也静岡県社会教育委員長（静岡大学イノベーション社会連携推進機構教授）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県の社会教育委員会で協議された過去のテーマで、“学校”が全面に出ることはこれまでなかったのでは。</li> <li>・間接的な学校支援の充実は、子どもや家庭、地域を支え、学校を支えている。</li> <li>・学校を支える地域と社会教育として、様々な取り組み事例の紹介があった。 <ul style="list-style-type: none"> <li>● 静岡市 「まちなびや」の「だがしや楽校」、「学区のお宝さがし」地域のなかで子どもと大人を繋ぐ。遊びの延長に学びがある。</li> <li>● 浜松市 「N-Pocket×与進小」の「ためタル君プロジェクト」</li> </ul> </li> </ul>

地域の課題に子どもが取り組む。地域に学び、地域に成果を返す。  
地域が子どもを担い手として認める。

- 静岡市 SOHOアットしずおか×中島中の「キャリア教育」  
横の連携が縦の連携を導く
- 富士市 富士市×富士市立高校の「市役所プラン」  
キャリア教育。自分ごととして地域を感じる。
- 三重県 多気町×相可高校の「高校生レストラン」  
キャリア教育。高校生によるレストラン
- 伊豆地域 伊豆半島×ジオガシ旅行団の「ジオガシ」  
ジオパークの“石”のお菓子。地域資源を可視化。

**○市町社会教育委員会の活動状況**

県事務局が資料を説明、質疑応答を行った。